

科目名		社会科学Ⅰ（Social ScienceⅠ）							
学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第5学年	電気工学科 物質工学科	学修	1 単位	必修	講義	後期	45時間		
担 当 教 員		【非常勤】 講師 高橋 正和 （【副担当】 講師 濱本 千恵子 ）							
学 習 到 達 目 標									
科目の到達 目標レベル	1)「人間とは何か」を問い、人間存在についての知見を深める。 2) 哲学の基本的問題、「存在」、「ことば」、「認識」、「知識」等々について哲学的な観点から考察できる。 3)「科学と真理」を科学哲学的な知見をもとに考察できる。 4) 地球文明的な視点と科学技術の歴史的展開を軸に、多角的な幅広い考察を展開できる。								
到達目標 (評価項目)	優れた到達レベルの 目安	良好な到達レベルの 目安	最低限の到達レベルの 目安	未到達レベルの 目安					
到達目標 ①	人間存在について、哲学、認知科学、生物学、社会学の諸観点からその本質的な特徴を適切に説明できる。	人間存在について、哲学、その他の諸学の成果を基に、重要な問題点を説明できる。	人間存在について、常識的な見解を超えて、哲学的な観点から基本的な問題を説明することができる。	人間存在にかかわる諸問題と論点を十分に考察できない。					
到達目標 ②	存在了解と言葉、言葉と認識の関連性について、ハイデガーの思想や認識論からの提言を基に、的確に説明できる。	存在や言葉、認識の密接な関連性を適切に説明できる。	ハイデガーや言語哲学の思想の概略を説明できる。	ハイデガーやその他の関連する思想について要点を説明できない。					
到達目標 ③	AIやクオリアの問題、認知科学、宇宙論など科学哲学的な観点から科学の諸問題を的確に説明できる。	AIやクオリアなどの問題を通じて、科学の諸問題を適切に説明できる。	科学哲学の観点から、科学の諸問題の概略を説明できる。	科学の諸問題を理解してその要点を説明できない。					
学習・教育到達目標		F③④		JABEE基準1(2)		(a)			
達 成 度 評 価（％）									
評価方法 指標と評価割合	中間 試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	40		20					100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎		◎					
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】	○	○		◎					
汎用的技能 【 】									
態度・志向性(人間力) 【 】									
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】									

関 連 科 目 、 教 科 書 お よ び 補 助 教 材	
関連科目	現代社会、倫理、法学
教科書	使用しない
補助教材等	適宜、プリントを配布し、講義の参考となる文献を例示する。
学 習 上 の 留 意 点	
哲学の探求する知は、科学的知識とも、また常識的知恵とも異質である。哲学は自然らしさを装ってそこにあるものに、あらためて考察のまなざしを向ける。たとえば、普段最も身近な「あること」(存在)という事態そのもの、ことば、身体、知覚経験については、無自覚な態度を取ったり、また非反省的に遂行されているがゆえに、自然的なあり方からは隠されている。そのために、それを自覚的に受け止め、それを意識化しなければならない。また知ることそのことの構造、思考、判断、否定、可能世界について哲学的なアプローチを試みる。それらの中心的な哲学的問題を検討することを通して、「人間とは何か」を根本から探求することが本講義の全体的テーマとなる。	
担 当 教 員 か ら の メ ッ セ ー ジ	
各分野で、すぐれた著者の書いたよい本がすぐに手に入る。ぜひ挑戦してみて、既成の常識を打ち破り、初めて知る世界に目を開かれる貴重な体験を味わってほしい。思考というものの偉大さと、思想の深さをつかむことで、変わる自分を発見できる。世の中なんて、人間など所詮こんなものさ……という「わけ知り顔」の固い硬い頭を木っ端みじんにして、最初の一步から出直しましょう。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	はじめに	哲学とはどのような学問か。人生観とか世界観というところから始めて、哲学像をきちんと持つことができる。	配布プリントとノートを見て、小レポートを作成し、次回提出する。
2	「存在」をめぐる考察	存在への問い(ハイデガー、ウィトゲンシュタイン、ライプニッツ、アリストテレス)を取り上げて、解説する。これを通して、存在問題が哲学の根本問題であることを理解できる。	配布プリントとノートを見て、小レポートを作成し、次回提出する。
3	存在と認識	存在理解と人間の本質、自然システムと認識システムの相違と関連性について、基本的な理解を持つことができる。	配布プリントとノートを見て、小レポートを作成し、次回提出する。
4	言葉と認識(1)	可能性を開く言葉の力、否定と可能世界について説明できる。	配布プリントとノートを見て、小レポートを作成し、次回提出する。
5	言葉と認識(2)	身分け構造と言分け構造の違いについて理解し、人間とその文化の持つ特徴と意義を説明できる。	配布プリントとノートを見て、小レポートを作成し、次回提出する。
6	クオリアの問題	脳科学が直面する感覚的質と哲学の直接経験や感覚的経験の問題点の比較検討を通じて重要な論点を理解できる。	配布プリントとノートを見て、小レポートを作成し、次回提出する。
7	複雑性の科学	線形思想(法則の真理性、必然性、機械論、客観主義)に対置される新しい科学(非線形、非再現的な自然現象、生命など)の持つ意義や今後の発展性について、十分な理解を持つことができる。	
8	中間試験		
9	試験返却・解答解説 カントの認識論	カントのコペルニクス的転回、感性和理性の二元論を通じて、人間的認識に関する画期的な理論を理解できる。	配布プリントとノートを見て、小レポートを作成し、次回提出する。
10	日常文の解釈とAI研究	日常性の根底には自己及び世界についての解釈が横たわっていること、このことがAI研究にとっての最大の困難を引き起こすことを理解できる。	配布プリントとノートを見て、小レポートを作成し、次回提出する。
11	人間原理と宇宙論	20数個の物理定数によってこの宇宙が今あるような姿を取っているとして、人間(知的生命体)の発生と進化を、宇宙全体の中で位置づけようとする人間思想を説明できる。	配布プリントとノートを見て、小レポートを作成し、次回提出する。
12	近代科学と科学革命	ニュートンを完成者とする科学革命はヨーロッパに起こった。そのことを西欧の歴史的・社会的背景から適切に解説できる。	配布プリントとノートを見て、小レポートを作成し、次回提出する。
13	M. シェーラーの哲学的人間学	シェーラーの哲学的人間学の基本的主張を把握し、人間とは何かについて、哲学的なアプローチができる。	配布プリントとノートを見て、小レポートを作成し、次回提出する。
14	生物学の人間思想	生物学の観点からなされる人間理解の諸説を理解し説明できる。	
	学年末試験		
15	試験返却・解答解説 授業評価アンケートを行う	試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。後期の学習事項のまとめを行う。	
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			30 時間
自学自習			15 時間